

第 19 回 新潟統合失調症研究会

医療法人水明会佐潟荘 医局

1月17日、第19回 新潟統合失調症研究会（場所：新潟グランドホテル、共催：大日本住友製薬株式会社）に参加しました。特別講演は、名古屋大学高等研究院・大学院医学研究科の特任助教 九島周先生による「統合失調症のゲノム解析と今後の展望」でした。高度な先端的内容を、日本人の統合失調症患者から提供されたゲノムコピー数変異（Copy Number Variation, CNV）解析を中心として、ゲノム医学に不慣れな臨床家にもわかりやすく解説していただきました。よく知られた 22q11.2 欠失症候群（第三・第四鰓弓に由来する複数の臓器の発生異常や奇形が特徴で、軟口蓋帆・心臓・顔症候群（velo-cardio-facial syndrome, VCFS）を呈することがあり、統合失調症を発症するオッズ比が約 50 と非常に高い）を含む臨床的意義を有する CNV が、統合失調症患者 100 人あたり 8~9 人（8.6%）も存在する（Kushima I. Mol Psychiatry. 2016）というのは驚きでした。そのほか、創薬に向けた iPS 細胞研究、高次脳機能解析のための霊長類モデル動物の開発など、大いに期待される展望が示されました。